



# 乳房再建用モノステインガーを用いた 自然で鮮明な乳房下溝の形成

大阪大学医学部形成外科 学部内講師 富田 興一

乳房再建用モノステインガーは、美しい乳房形態の重要要素である、乳房下溝を形成する目的で開発されたモノフィラメント吸収糸です。本製品は人工乳房、自家組織の何れによる再建においても使用可能です。

## 特徴1：特別仕様の強弯丸針

内側アプローチによる乳房下溝形成においては、下溝部における浅筋膜を含む皮下組織を、吸収糸を用いて胸壁上の組織へ固定し、癒着させることが重要となります(図1a-d)。本製品は針長 36mm のテーパーポイント強弯丸針を有することで、組織の損傷を最小限としながら、大きく組織を拾うことが可能です。また、針のしなやかさを保持しつつ強度を最大限に高めたことで、皮下組織の厚い症例においても針が組織内で折れたり曲がったりせずにストレスのない操作が可能です。さらには、リリースポイント(針と糸が一定の力により外れる)仕様となっていることから1針毎に固定の強さを調整できます。

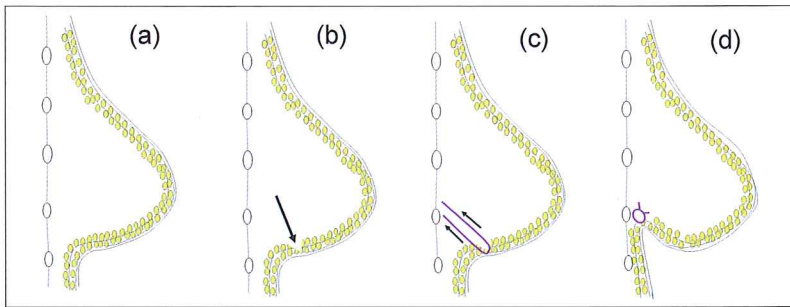


図1：内側アプローチによる乳房下溝形成

(a) 乳房下溝形成前の状態。

(b) 予定乳房下溝位置に内部から浅筋膜に切開を加える。

(c, d) 浅筋膜を含む皮下組織と胸壁上の組織を吸収糸で複数箇所固定し、乳房下溝を形成する。

## 特徴2：吸収期間の長いモノフィラメント糸

形成した乳房下溝を定着させるためには、癒着形成や被膜形成がある程度完了するまで固定力が保持される必要があります。一方で、非吸収糸を用いると術後の引きつれが遷延する恐れがあります。本製品で採用した3-0モノステインガーは、6週目においても約50%以上の張力を有する(ポリグリコール糸(ブレード吸収糸)では殆ど消失)ことから、より長期間の固定が期待できます。

## 症例：48歳、女性、右乳癌(写真1a)

右乳癌に対し胸筋温存乳房切除術、腋窩リンパ節廓清術、ティッシュ・エキスパンダー挿入術を施行。胸壁への放射線照射施行後(写真1b)、被膜切除、人工乳房への入れ替え、および内側アプローチによる乳房下溝形成を行った(写真1c)。術後1年目において良好な整容性が得られている(写真1d)。

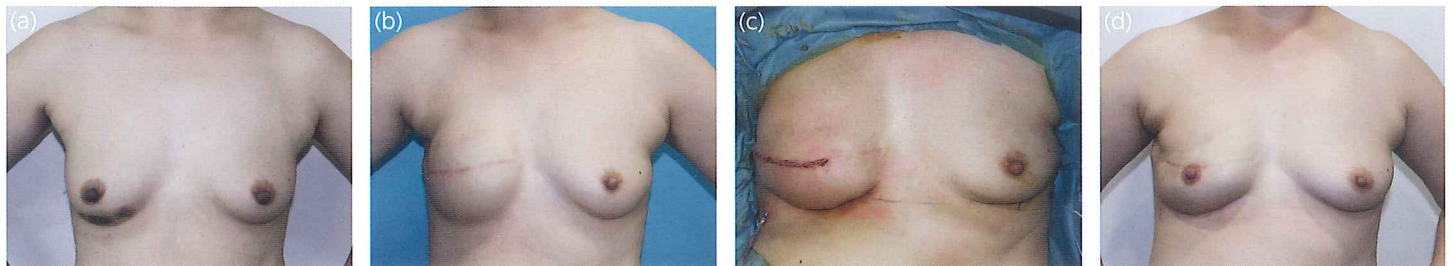


図2：症例供覧 (a) 術前の状態。(b) 術後放射線治療後の状態。(c) 人工乳房への入れ替え、乳房下溝形成直後の状態。

(d) 術後1年目の状態(乳輪乳頭形成後)。

## おわりに

乳房再建用モノステインガーを用いることで、皮下組織の厚い症例から薄い症例まで、自然で鮮明な乳房下溝形成がストレスなく行えると考えられます。また、生体内での糸の張力保持期間も長く、術後の後戻りが減少することが期待されます。